

パネルディスカッション

(仮) 岩手で実践したDX事例から横展開を図る

令和5年3月9日

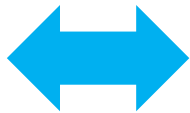
(所属) 株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ
株式会社東北医工
(氏名) 大関 一陽

1. 自社紹介

事業内容	要素技術
USB接続型計測器 PA-Sシリーズ デジタルオシロスコープ  超高速データロガー 	CAN&LIN等車載通信技術  FPGA(Field Programmable Gate Array)設計技術 
受託開発 ECU検査装置  インフラ関連  防衛関連  産学官連携 脳卒中リハビリロボット Ouvert  特許第5928851号	リアルタイム組込み 計測制御技術 

参考資料

車載コンピュータ（ECU）の 検査装置開発と製造



株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ

医療機器としての脳卒中リ ハビリロボットの開発



株式会社東北医工

2. DXに取り組んだきっかけ

元々保有している「組込み」を中心としたコンピュータやITの技術を使って、新しいビジネスを生み出す。

- ・ 株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ

現場の見える化。

熟練者と経験の少ない方との差異分析。

- ・ 株式会社東北医工

現在行われている療法士によるアナログ的な療法を、ロボットを使ってデジタル化できないか。療法士の負担軽減と患者の治療機会の増大を目的に。

3 .DXを進める課題（苦労したこと）

経営資源（ひと、もの、金）

医療機器については、上記の理由で参入障壁が高い。
専門家派遣や補助金の活用。

組織や現場との軋轢

現場の方は自分のメリットと直結するのかなり協力的

県民性/企業文化

オープン／クローズの面では違いがある

参考資料

4 .DXを進める時に役立ったこと

同業他社

中小企業の場合すべてを自社の技術とリソースで賄うのは困難。
協業出来るパートナーが重要。

組織・団体

産業支援機関/研究機関など

どこに行けば相談できるのか、またパートナーはどこにいるのか等の情報交換の場として重要

5.現在の状況

- ・株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ

いくつかの工場で提案を行ったが、採用数はD Xという言葉が普及する前の方が多かった。

- ・株式会社東北医工

今年2023年中に脳卒中リハビリロボットが医療機器として承認予定。

少子高齢化に伴い増々医療分野でのロボティクス技術は需要が固まる。

参考資料

6. 今後の展開

工場等は比較的デジタル化とそれに伴うDX推進が容易であるが競争も激しい。

比較的デジタル化が遅れている分野での応用。

ただし、その分野の知識が必要となり、協力者の存在が必須。